

会 議 録	
会 議 名	令和 7 年度第 3 回丸亀市社会教育委員の会
開 催 日 時	令和 7 年 10 月 2 日（木）14 時 00 分～16 時 00 分
開 催 場 所	丸亀市役所 4 階会議室
出 席 者	出席委員 金澤 泰宏・秋山 いとこ・引田 真人・大村 隆史 三井 喜代子・逸見 美智子・鈴木 裕美・西谷 清美 荻上 健太郎（オンライン） 欠席委員 白川 常俊 傍聴人 なし 事務局 田中部長・村尾課長・白石担当長・藤本主事
協 議 案 件	議 事 (1) 第 5 次丸亀市生涯学習推進計画（素案）について 報 告 (1) 第 47 回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会について
配 布 資 料	【資料 1】基本理念修正案 【資料 2】第 5 次生涯学習推進計画素案 【資料 3】丸亀市生涯学習推進計画に関するアンケート調査報告書 【資料 4】第 4 7 回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会要項
事務局	<p>本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>会に先立ちまして、資料の確認をお願いします。資料につきましては、事前にお送りした資料 1～4 です。</p> <p>それでは、ただいまから、『令和 7 年度第 3 回丸亀市社会教育委員の会』を開会いたします。</p> <p>本日の会議は 10 名の委員の内、9 名の委員にご出席いただいておりますので、「丸亀市社会教育委員の会に関する規則」第 6 条第 1 項に基づき、本会が有効に成立しておりますことをお知らせします。</p> <p>本日の会議につきましては、『次第』に沿って進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに、会長よりご挨拶をお願いします。</p>
会長	《開会あいさつ》

事務局	<p>それでは、ただ今から議事に入らせていただきます。</p> <p>「丸亀市社会教育委員の会に関する規則」第 4 条第 1 項により、会長に議長をお願いします。</p>
会長	<p>それでは、私がこれからの議事を進めさせていただきます。</p> <p>本日は議事が 1 件、報告が 1 件ございます。</p> <p>はじめに（１）「第 5 次丸亀市生涯学習推進計画（素案）について」資料 1 から資料 3 まであります。資料 1 から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>《事務局説明 資料 1 「基本理念修正案」》</p>
会長	<p>基本理念と基本目標というのが密接に関わって設定されているというところもありまして、前回の議論の中では、理念を特に話として取り上げたんですが、19 ページですかね。その 19 ページを見ていただくと分かる通り、理念から矢印が出てきて、それが 3 つに分解するようなイメージで基本目標が設定されておりますので、理念を見直すのであれば、これと関わる基本目標というのも、もしかすると見直しの必要が出てくる可能性もあるという事で、今回新しくお示ししていただいたというところですよ。</p> <p>ここで、この修正案のどれかを採用するという話でももちろんありですし、何かあれば、是非コメントいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>前回の話し合いの中で、これについてご意見いただいたのは、A 委員でしたり、B 委員だったと思うんですけども、今回のこの修正案を、ご覧になっていかがですかね。よかったら一言お願いします。</p>
B 委員	<p>前回の時に、「学び続け」が、強制的なイメージがあるというので、私が提案させていただいたので、考えていただいた案がすごく柔らかい表現になってるな、とは思っています。前回帰ってから考えて、学ぶという言葉、学習とか勉強として捉えてしまったら、強制的なイメージになってしまうとお話しをさせていただきましたが、それよりも「続け」の部分が強制的だったのかなって、自分の中で考えてしまいました。もし私がこの中から選ぶとしたら、3 番かなって思ってたんですけど、前回の「誰もが学び続け」を活かすのであれば、「続けられる」とか、自分が選択できるニュアンスで。自分が選択して学ぶこともできるし、学ばないこともいいよっていう風に、学びたい人が学び続けられるようなニュア</p>

C 委員	<p>ンスにもっていけばよかったのかなと考えました。</p> <p>私も前回その続けというところが、やっぱりちょっと強制的というか、ちょっと何か、しなくちゃならないというか、そういうニュアンスで受け取ったので、もう少し柔らかい感じがいいかなと思ってます。この案の中で私のイメージに一番近いのは3番、「自分らしく」という部分。先ほど、B 委員さんは、自分のペースでって仰ったんですが、ペースもあると思うんですけども、「自分らしく」っていうのは、その人その人の個性があって、その人の学び方っていうのはそれぞれ違うと思うんですよね。だから「自分らしく」っていう意味の中にたくさん、自分の学び方はこうなんだっていう、そういうことも認めていくのであれば、「自分らしく学び」と、2 番の「広げ」っていうのもいいなと思いました。学びを広げていくというのは、経験を積み重ねていくっていうことにもつながるので、2 番と 3 番をくっつけるのもありかなと思いました。学びをひらがなにするのも、柔らかい感じがするので良いなと思っているところです。</p>
A 委員	<p>新しい案を 5 つ考えていただいてありがとうございました。私は、例えば成長することとか、可能性を広げる、可能性に挑戦するとか、可能性を見出すとか、色んな言い方があるかなと思います。「自分らしく」っていうのは、すごい抽象的なのかなと感じていて、「自分らしくって何ですか？」っていう議論にまたなりそうな感じがします。私は、自分のペースで、とか自分に合ったやり方で、とか、そういう意味なのかな、この場合はと思いました。</p> <p>前回、学びっていうのがすごく強制感があるっていうお話があったので、私は「成長し続ける」というのを提案しましたが、「誰もが自分らしく成長し」の方が、成長することって学ぶこともあるし、体験だったり出会いだったり、いろんな要素が入ることで、より良い方に向上するとか、そういうような意味になるのかなと思っています。</p> <p>理念だから、「こういう風になったらいいな」というのを表わしているだけのことで、自分の中では「学び続け」もあまり違和感はないんですけど、いろんな立場の人がいるので。そういう意味では、「自分らしく」って言葉はいいかなっていうのと、「成長」って言葉を入れたらいいかなっていうのは感じたところです。</p> <p>「学び」をひらがなにするのは、見た目が違うだけで、内容は変わらないのかなと思ったので、4 はどうかなと思います。</p> <p>1 から 3 を混ぜていく感じがいいかなという印象を私は受けました。</p>

会長	ありがとうございます。では D 委員、よろしければコメントをお願いします。
D 委員	<p>はい。そうですね、いろいろ案が出た方がいいかなと思うので、私も少し代案を出したいなと思ったんですけども、この基本目標を見ながらちょっと考えたときに、1 つなんか大事なキーワードなのかなと思ったのが、学びの主体とか主体者になるっていう部分が、理念の中でも表現できたらいいなという風に感じました。</p> <p>誰もが学び続けるという表現自体は、私もそこまで強制力みたいなのが気にならなかったのは正直なところなんですけど、一方で、例えば、「誰もが学びの主体となる」とか、あるいは「誰もが学びの主体者として」とかですね、どちらかという当事者意識みたいな部分を、微妙に議論がずれてしまうかもしれませんが、この辺りは、1 つ大事な要素として表現ができるといいかなと思いました。</p> <p>それと、先ほどの基本理念と 19 ページの体系図を見たときに、理念のその下の目標が大きく分けると、ひとり一人がちゃんと学び手になるみたいな部分が 1 点目。その後で、それが個人だけではなく、地域社会の発展に繋がるという部分が 2 点目。最後にそれをひとり一人の頑張りだけではなくて、支え合うとか学び合うことに繋げるところが 3 点目に書いてあるので、やっぱりいずれにしても共通するところが、ひとり一人みんなが生涯にわたって学びの主体なんだということが、理念としても表現できるのかなという風に感じました。</p>
会長	はい、ありがとうございます。そうですね。ではよろしければ E 委員からもお願いいたします。
E 委員	<p>私的には、A 委員に大変申し訳ないんですけど、「成長」は外した方がいいかなという風に思っています。なぜかという、成長とか適応とか、進化っていうのは、やっぱり市場の競争原理を思い起こさせてしまって、そうでなければならないと、他の委員の皆さんおっしゃってましたけども、少し強制力を伴うというようなイメージがあって、成長という言葉は、同じようなイメージだとしても、この言葉を残さない方がいいと個人的には思っています。</p> <p>それから、もし修正案の中に、ここにはありませんけれども、先ほどの目標のところでありましたけども、例えば、「互いに学び合い、幸せに豊か</p>

F 委員	<p>に暮らせる地域社会の実現」だとか、共生社会を目指すというところからすると、「学び合う」っていう文言で表現する方が、これは理念ですので、いいんじゃないかなと個人的には思っています。</p> <p>「学び」というところなんですけど、実は PTA でも委員会を今年度から始めまして、「PTA のあり方委員会」っていうのと、もう 1 つが「まなび交流委員会」といいます。「学び」は平仮名にしています。これはまなび文化課さんを参考に名前を付けさせていただきました。学という字、我々社会教育団体なんですけど、そこはちょっと固いよねっていう話になりまして、柔らかくするために平仮名にさせていただきました。理念にふさわしいか分かりませんが、感覚的な、印象的なところで、平仮名で柔らかさ表現するのがいいかなと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。では G 委員お願いします。</p>
G 委員	<p>私はこの中だったら 3 番の自分らしくというキーワードが入ったのがいいかなと思いました。他にも「共に学び合い」とか、「自分らしく輝き」とかもいいかなっていう風に思いました。</p>
副会長	<p>それでは、私なんですけど、第 4 次計画の方を見たんですけど、第 4 次の計画の中では「多様な学びで繋がる人・まち・未来」っていうタイトルだったんですけど、これはこれで「多様な学び」っていう部分に、先ほどおっしゃってたような学びの主体がちゃんと含まれる。それをもう少し詳しくしたようなものが、今回出てきている理念の原案かなと思うんですけども、非常に感覚的なところがあって、人それぞれ感じ方が随分違いますので、これがいいとかこれはどうかなとか言い始めると、いつまでたっても多分答えは出ないような気がするので、いろんな言葉で、先ほどから出てきていますけど、自分がやってきて、それぞれの人がやってきたことが生かせる、それから今やっていることが、他の人のためにも活かせるっていうような、そういう地域社会を作っていきたいねっていうような、呼びかけるような、そういう表現であれば、あまり言葉を細かく限定しなくてもいいんじゃないのかなっていうのは思っています。漢字を使うとか平仮名を使ったとかによって、感覚的には感じ方はそれぞれ違うと思いますけれども、あんまり深く追求しなくてもいいのではないのかなっていう風には思っています。</p>

<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。今、副会長もおっしゃった通り、感覚は人それぞれ違って、その学び続けというフレーズに対するイメージが、そもそも強制力があるかどうかというところでも、意見が違ったのかなと思いますけれども、でもその視点っていうのはすごく大事で、その中で、何か 1 つの方向に対して、強く導くことがないような、余地のある表現っていうのが、理念としては相応しいのだろうということでした。「成長」というものも、方向性で言ったら、上とか右肩上がりとか、高まるイメージがありますけれども、必ずしも成長に繋がらない学びもあると思うんですね。そういう時に学びという言葉はある程度こう中立的な価値を持っていて、マイナスの方向に働く学びもちろんありますけれども、そこをどこまで、この理念を通して表現するかというところで、「可能性を広げ」も実は近いものはありますけれども、そういう時に方向性を必ずしもこちらが定めるのではなくて、あなた方自身が主体となって決めるんですよというスタンスを示すのは、「自分らしさ」というフレーズや、D 委員から出たような、「主体」というフレーズを明示していくっていうところかなと思いました。</p> <p>この辺りは、どの委員の皆さんにも共通するような思いだったのかなという風にも思いますし、あとは伝わり方として、柔らかさだったり、寄り添うような感じ、PTA の方で学びは、ひらがなを用いられたという事だったので、そういう寄り添い方をするとところでは、「自分らしく」というフレーズは 1 つすごく身近な表現なのかなという風にも思いましたね。</p> <p>あと視点としてはやっぱりこう、基本目標との兼ね合いがちゃんと取れるかっていうところかなと思います。一応、事務局側としてはもうこの 1 から 5 のどの案であっても問題ないという事で、確認を取って頂いてます。D 委員が整理して下さったように、整合性を取った上で、この理念が意味が通るものであって欲しいと思いますので、そういう意味では、「誰もが」というフレーズは実は共通しているところかなと思います。</p> <p>ここから先は事務局に任せて、次の会議でこれらの意見をふまえた修正案を示して頂くのが、この場としてはいいのかなという風に思っています。</p> <p>では続いて資料 2 に関しても、事務局の方からご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>《事務局説明 資料 2 「第 5 次生涯学習推進計画素案」》</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>かなりパートとしてボリュームが増えたのが 6 ページから 13 ページです</p>

	<p>ね。基本政策を導き出すまでの根拠となるデータですとか資料っていうものが、この 6 から 13 ページにかかってて、かなり緻密な記述があって、14 ページ 15 ページという形に具体化すると、そういう流れで資料が作られています。</p> <p>さらにそれを今回の計画の形に文言を書き直して作ったものが 19 ページにあると。それから、20 ページから 27 ページまでは、今後細かいところを埋めていく必要があるというところで、今回は空欄で示して頂いていますが、基本施策に対して成果指標であったり具体的政策っていうものが入ります。</p> <p>それから最後 29 ページの PDCA サイクルですが、前回の議論ですと、ウェルビーイングっていう概念との兼ね合いの中で、今ご説明があった通り、こちらが想定した成果だけを持って測ることの限界っていうのが、前回 D 委員からも指摘があったと思うんですけど、それに対して今回は MSC という手法を提案していただいて、全ての事業にこれを当てはめるっていうのは、あまり現実的ではないかなとは思っていますけれども、この手法があって取り組む余地があるっていうだけであっても、この PDCA サイクルだけで回す計画よりは、1 歩も 2 歩も先に踏み込んだご提案だったんじゃないかなという風に思っています。</p> <p>それからロジックモデルに関しても、既に実績もあるということで、社会教育学的にはかなりよく使われる手法なので、すごく親和性も高いですし、それを組み合わせた MSC という手法が、一体どんな成果を可視化してくれるのかなというのを少し私自身も期待するような評価手法だなということでお聞きしておりました。</p> <p>特に投げかけがあったパートからは是非ご意見を頂ければなと思っているので、19 ページを一旦ご覧いただきまして、まずですね、基本理念や基本目標というものは、この計画というものの性格状、状態を示す文言で設定される場合が多くて、それを達成するための行動というものがその下に連なっていくというような作りなのですが、今、環境作りとか、術語というか、動詞で終わっているようなところがあると。この文言を見直す必要があるかどうか、そういったところから、委員の方で意見をいただければということで、投げかけがあったんですけども、この点に関して、何かアイデアですとか、ご意見いただける方いらっしゃれば、ぜひお願いします。</p> <p>言葉の問題かなという感じもしますし、先ほどご意見があったように、あまり細かいところを突き詰めてもってということもあるかなと思うので、もし状態を示す言葉にするんだとすれば、1 番は先ほど事務局の方が</p>
--	---

D 委員	<p>おっしゃったような、「環境」という言葉で留める。それから 2 番は、「人材の充実」でしたか？という言葉に変える。3 番もこれは「環境」で留めるっていうのが、1 つ提案だったのかなと思うんですけども、この提案に対してご意見等がありましたらお願いします。</p> <p>私も悩みながら今聞いていたところなんですけれども、確かに言葉の使い方の整理みたいなのは、こういう機会じゃないとなかなかできないので、あまり言葉にとらわれすぎない範囲では、大事だと思いました。あまり具体的ではないのですが、少しコメントでよろしいですか。私はこの 19 ページを見ながら、実際悩んでましたのが、基本目標に 1 と 3 で「環境作り」という言葉が出てくるんですけども、一方でその環境ってとても難しい言葉なので、右側の基本施策とかを見ていった時に、今回を機会に考えられたらいいかなと思いましたのが、今「居場所」という言葉がよく使われることも増えてきてるかなと思うんですけども、その表現がありました。</p> <p>多様な誰もが学びの主体として、どんな形でもいろんな場所で、学ぼうとしてる人がいられる場所、居場所みたいなのが、この 19 ページの中のどこかに入れればいいかなという風に思いました。</p> <p>似たような言葉はたくさん、「施設の機能強化」とかですね、色々あるんですけども、よくよく見ると、右側の具体的な施策になった時に「居場所作」というところは少し抜けているのかもしれないと感じました。すみません。基本目標の表現の議論だったと思うんですけど、そちらでも関連するかなという意味でコメントをさせていただきました。よろしくお願いします。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。そうですね。「居場所」というフレーズはどうですかね？PDF 上で検索かけてもかからないですかね。</p> <p>《検索》</p> <p>計画の中には出てきていないということですよ。はい。</p> <p>今回 6 から 13 ページにあったような、過去の政策の振り返りであったり、アンケートっていうところから導き出してきている、ある意味ちょっと機械的な導き出し方をしていることもあって、もちろん緻密ではあるんですけども、少し出て行きにくい概念だったのかもしれないですね。</p>



副会長	<p>ただ、家庭教育の分野でもそうですし、青少年育成っていうところでも、絶対に必要な概念だと思っていますので、体系に入れるのか、今後具体的施策の中で盛り込んでいくのかっていうところもあるかなと思いますので、見落とされていたところを検討頂けたらなという風に思います。あと他の皆さんはいかがでしょう。</p> <p>基本目標のことなんですけど、基本理念の方でさっき出てきていたものを目指して、前回も私申し上げましたけれども、やることを言い切った形で示したほうが良いと思います。この基本理念を実現するにあたって、丸亀市では誰もが学び可能性を伸ばせる環境作りをします。地域社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材を育成します。まち全体で共に学び合い、支え合う環境づくりをします。と。で、そういった内容のことについて具体的な施策が、今度右の方に出てくるんじゃないのかなと思います。だから、やることをはっきりと前に出せば、とても良い表現じゃないのかなと私は思います。</p> <p>だからそういう風に考えれば、この形は何にもおかしいことはないなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。はい、お願いします。</p>
A 委員	<p>この基本目標がすごく、私にとって分かりづらいです。</p> <p>1 番最初が個人に対しての目標で、2 番目が地域の目標、3 番目がまち全体の目標で、先ほども「人材の育成」みたいな要素は他のところにも出てくるとおっしゃってましたが、たしかに基本目標 3 のところの「教育力の向上」も、これも人材の話です。基本目標 2 でも出てきて、何に対してっていうのが分かりにくい。育成は施策の中にすべて入って、目標は対象になるのかなって思ったんですよね。どう分けているのかが私の中じゃクリアじゃないっていうのが一つ。あと先ほど色々な意見が出た時に、1 番の「誰もが可能性を伸ばせる」は可能性を「広げる」ではなく、「伸ばす」ですかね。他にも「主体的な」とか、色々な言葉が出てきて、それをここに目標として入れるのもいいのかなという風にお話をされていましたが、その目標のターゲットは何なのかということを明らかにした方が、政策を考えるのに良いのかなと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。生涯学習推進計画ですので、基本的には我々市民が基本的なターゲットになると思うんですね。その市民の学習を奨励</p>

	<p>する、励ますっていうところが基本的にはスタンスになると思いますので、その属性ということですよ。</p> <p>確かに目標を綺麗に 3 つに区切るっていうのは難しいことで、これは事前打ち合わせの時に少し話題になったんですけど、小学校の頃に前の黒板の上とかに、たくましい心とか、優しい心とか、思いやりの気持ちみたいなものがあつたと思うんですけど、あれもクラスの目標だつたと思うんですけど、優しさにも思いやりにも重なる要素ってあると思っていて。それが今回の場合で言う人材の育成とかなのかなと思うんですよ。どの場面でもやっぱり人材の育成っていうのは必要な取り組みであつて、これがじゃあいっぱい出てくること自体、私はおかしいことではあまりないかなという風には思っています。</p> <p>ただ、それをどう分類してるのっていうところは確かにあつて、私はさっき D 委員がおっしゃつたような、1 番目が個人の学びとか学習機会に関するもの。2 番目はそれが地域社会に波及する内容というか、支援の仕方ですよ。で、3 番目は個人が個別にやるのではなくて、それがネットワーク化されていくっていうことを想定した支援の形っていうような分類で、大まかには出来ていたのかなという風に思っています。</p> <p>生涯学習施策の歩み的にも、個人の学習機会を充実させるっていうのは当初かなり推進された上で、それを社会に活かすっていうのが次の段階にきてですね。で、最後最近はこのネットワーク化するみたいな流れもあつたりするので、この分け方に関してはそこまで違和感はないですけども、どうでしょう？</p>
A 委員	<p>人材の育成じゃなくて、支援の充実とかの方が、その中に ICT とか、人もそうだし、居場所みたいな場所的なものも入るし。目標なのに「人材の育成」ってここだけ限定的になつてのに、例えば具体的施策 9 番に ICT を活用した学習機会の提供が入っていて、人材の育成とあまりリンクしてない。だから支援の充実の方が良い感じがします。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。具体的にどんなフレーズがいいかっていう、お話だと思うんですけども、いかがですかね？</p> <p>副会長からは、今の書き振りで、ちゃんとスタンスが示せていれば、まったく問題ないんじゃないかって言うことを、でも、一方で少し分類が判然としないところだったり、具体的施策に挙げられてるものが、目標の中にしっかり位置づくような書き方になっているかという視点からすると、少し言い換えがあつてもいいんじゃないかという意見もありまし</p>

	<p>たね。</p> <p>人材育成だけではない取り組みが含まれているのであれば、その抽象度というか、表現を少し変えるといいのではないかと思います。</p>
C 委員	<p>先ほどの A 委員さんのお話に続けて、やっぱり 2 番がちょっと具体的すぎるような気がします。1 番と 3 番に比べて、2 番がちょっと具体的な感じで人材の育成というのが入るので、他にも人材が大切だと言うところもたくさんあるので、ちょっとややこしく、どう分けるのかというところが迷うところかもしれないので、2 番をもう少し大きく捉えてもいいのかなと思います。</p>
会長	<p>理念の時に出てきたフレーズをこっちで活かすのもいいんじゃないかというご意見も確かにあって、この学び続けるってフレーズをさっき考え直したばかりですので、例えばここを、理念とリンクさせて自分らしくとかを入れるのか、あるいはその主体と言う言葉が出てくると、少しカチッとした印象にもなってくるかなという風にも思いますし、いずれもこの基本理念の要素を切り分けたものでもあるし、具体施策をまとめたものでもあるということで、間に位置づくものなので、結構考えることが多くて難しいことを今皆さんにやって頂いているんですけども、もう少し材料が頂けたら、事務局としても作業がしやすいかなと思うんですがいかがですかね。</p>
E 委員	<p>失礼します。ちょっと言葉遊びになっちゃうかもしれないんですけども、私も 1 番 2 番 3 番この基本目標の並びでも全くおかしくはないかなと思っています。ただ、皆さんの議論を聞いていると、2 番のところ確かにちょっと具体的で、基本目標の方が具体性が高いので、例えば具体的な施策のところを見て頂くと、地域社会の継続的な発展に向けて学び続ける機会の「充実」だとかですね、あるいは 3 番のところもですね、「環境」というよりはむしろ、ネットワーキングという言葉を目頭に置くと、まち全体で共に学び合い支え合う「関係」とかですね、そういう風な表現でも十分表現できるんじゃないかなと思いました。</p>
会長	<p>ありがとうございます。確かに環境作りが 1 と 3 で続いているのに 2 だけ違うとかですね、1 と 3 を分ける方がいいのかなとか色々考えちゃいましたけれども。ほかの委員の皆さまはいかがですか。またお気づきの</p>

	<p>ことがあれば、是非ご意見を頂きたいんですけども。あと、23 ページから 27 ページのですね、この具体的施策とか指標の部分でも、皆さんの専門の分野からコメントを頂ければということで。まだ空欄が多いので、あまりイメージしづらいこともあったりするんですけども、一応この具体的施策の内容が、2 行とか 3 行とか 4 行とかで詳細に表現されているというところで、ここが皆さまの一人一人の専門分野と関わるものがあるのかなと思うので、ここに対してのコメントとかももし今頂けたら、今後その空欄を埋めていく際材料として活かして頂けるかなと思うんですけども。</p>
事務局	<p>はい、現段階では空欄なんですけれども、事務局の案として、今これなら入るかなっていうのを想定したものも一応ご用意はしてまして、それはもう画面に映すのみになるんですけども。はい、こういう風に、例えば人権教育の推進だと、学校教育、授業中での人権教育ですとか、社会教育中での人権教育ですとか、あと人権の啓発っていうような、いろんな要素を考えながら、案 1 を入れておりますので、皆さんでイメージしにくいようなところがあったらご質問いただければ、例えばこういうものですっていうようなご説明はできるかなと思います。</p>
会長	<p>皆さんの専門分野の部分のご意見頂く時の材料にもして頂ければと思いますので、もし必要があればご質問頂ければと思います。じゃあ、今スクロールでいいので、ちょっと一旦ざっと入ってる分で結構ですので、見せて頂けますか。</p>
事務局	<p>はい、本当にまだ途中なので埋まってないようなところがあったり、まだ検討途中のようなところもあるんですけども。今後市役所の中のいろんな部署から取り寄せして具体的に入れていく必要もあるので、そういった部分もあります。第 4 次計画の内容ですとか、他の市役所の計画などから当てはまるような事業を今、はめていっているような状態ですので、それ以外で皆さんのご専門分野でこれも当てはまるじゃないかなっていうようなところがあれば、ご意見頂いてもいいかなという風に思ってます。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。さっきまでの議論で言うと、1 つ居場所に関する事業っていうのは、この中に入れて頂けたらなという風にも思うのでどうでしょうね。子どもに限らずっていう視点も大事かなとは思ひ</p>

事務局	<p>ますし、どうでしょうね。</p> <p>基本目標 2 の 8 とかは、多世帯の参加型学習機会の提供っていうところですけど、居場所が、学習機会という風に読み替えられるのかどうかっていうのもあるんですけども。</p> <p>学習、居場所っていうのもあると思うので、ちょっと位置付ける時は、慎重とまでは行かないですけど、ちょっと考えが必要かなと思うんですけども。今全くの空欄になっていたのは、5、6、7 ぐらいですかね。</p> <p>そうですね、6、7 ですね。この学習をサポートする人材というのが、指導をする人という意味ではなくて、どういう風に学習をしたらいいかわからないっていう方に、こういう学習の場があるよっていうようなことを伝えられる機会がある人を育成する。もしくは例えば障がい者を支える立場の方が、こういう学習ができるよという働きかけをする意識を持って接して下さるような取り組みですとか、そういったことが入るのかなと思っております。</p> <p>それと、この 7 番の多様な主体との対話を通じた事業の実施というのが、具体的にこれをするための事業があるか、今はまだ分からない状態なのと、先ほどご説明したように、事業を実施した時にですね、その参加者ですとか当事者から、その事業をやってみてどうだったかっていう意見を収集するような、そういう仕組みを、特定の事業じゃなくて、いろんな事業に組み込んでいくというような意味合いも含められたらなと思ってます。</p>
会長	<p>さっきの MSC の話ですよ。7 番の中で、市民の声とか学習者の変化とか声っていうものを拾い上げていく、捉えていくっていうところで、取り組みがここに入ってくるんじゃないかっていう見込みもお話いただきましたし、6 番も結構大事ですよ。</p> <p>今の話だと、例えば、在宅介護が必要な方が、生活の介護を受けるだけでなく、そこに学習の視点を持ってその人の生活をサポートするような、介護士がもしかしたらここに当てはまっていくのかなっていう風にも思ったりしますね。今まで学習っていうものを課題にしてこなかった人たちが、そうではなくて、その学習っていうものも人生を構成する 1 つの要素を担って、そこに目をかけてサポートしていけるような人材を育成していくっていう、そういうイメージが 1 つあるかなという風に思っています。</p> <p>やっぱり関連部署との緊密なやり取りっていうのが今後絶対に必要にな</p>

D 委員	<p>ってきますよね。</p> <p>今 D 委員からコメントが来てたと思うので、ちょっと表示していただけますかね。</p> <p>《画面上でコメント》「多様な主体が安心して学べる居場所の提供を⑦にいれてもよい。」</p>
会長	<p>ありがとうございます。あの、発言すれば良かったんですけど。</p> <p>先ほど提案した「居場所」に関連する、具体的にしたいものというのが、ちょうど具体的施策⑦がまだ空欄になっているので、例えば「多様な主体との対話を通じた事業実施」の関連の具体的施策として、「多様な主体が安心して学べる居場所の提供」とか、あるいは「学べる居場所づくり」みたいなものを入れてもいいのかなと思って、コメントをお送りさせていただきました。以上でございます。</p> <p>はい、ありがとうございます。⑦の中に、「多様な主体が安心して学べる居場所」っていうような項目が入るということですね。はい、ありがとうございます。</p> <p>この他お気づきのことがあれば是非ご意見いただきたいんですけども。何かございますか。</p>
A 委員	<p>やっぱり学習っていうのは、自分の心が安定していないと学ぼうって気にはならないですね。</p> <p>だから、ここにあるこの学びは、家庭とか、いろんな環境で落ち着いている人の次の段階の課題になるのかなと思うので、その前に必要なのは「居場所」っていう部分だと思います。</p> <p>こども家庭庁のライフマップみたいなものがあるんですけど、その子どもの思春期の部分に「居場所作り」っていうのが目標で国の施策として入っているんで、具体的施策の「基礎的な学習の支援」ってあるんですけど、ここにやっぱり居場所が必要で、例えばフリースペースというようなものも、丸亀にはそんなに多くないですけど、香川県内にもあるんですね。それが結構民間で、手弁当でやっていて、なかなかその経済的支援がないために、例えば、もっと相談できるような専門の人を呼びたいとか、色んな体験学習をさせてあげたいって思うんだけど、そのお金がないからしてあげられないっていうのもあるので、実際に今やってるリソースに対して支援をしていくっていうのも 1 つすごく大事なところ</p>

会長	<p>じゃないかなという風に思います。事業のところで、学習支援とか、学校教育課がされているものもありますけど、それ以外のフリースクール、フリースペースや、学校のオンライン授業とか、そういうものの推進とかです。大体は、オンラインで受けたいって言っても、学校に来て勉強したらいいでしょって言われて、1人2人のためにオンラインをするのは手間ですよね。そうやって断られることが非常に多いので、そういうことを県、丸亀市の方から、積極的にお願いしますって提言していくとか、実際あるものにお金をかけていくとか。</p> <p>あと私自身が今やろうとしているのが、ユニパスサポーターって言って、大学生が引きこもっている子どものところに家庭訪問にまず行って、ちょっと外から空気を入れて、遊んだりしながら、家庭教師ってわけじゃないんですけど、居場所が外にあるけど来れない人のために家庭の中に別の人が居場所を作るような、そういうような取り組みっていうのも、いいかなと思ったりします。</p> <p>香川県で、児相がやってるんですね。メンタルフレンドって言うんですけど、で、そこに「メンタルフレンドってすごくいいから紹介していいですか」って聞いたら、「紹介しないでください」って言うんです。学生を送るのにお金がないから。だから丸亀の方にも来てないと思うんですけど、このメンタルフレンドみたいなものとかですね、そういう形での学習支援っていうのもすごく重要ななっていう風に思います。</p> <p>はい、大変貴重な意見ありがとうございます。1つそうですね。教育と福祉の関連っていうのが本当に密接で、学校が子どもの居場所であったことが全国で分かったのが、コロナの時の一斉休校だったっていうこともありますし、本当に教育現場での問題が実は福祉の課題から生まれてきたとか、逆に教育が受けられないから生活が向上しなくて、福祉が改善しないみたいな、お互いやり取りもある分野ですので、今、鈴木委員からあったような視点っていうのは、絶対に必要な観点ですよ。</p> <p>また居場所とか、学習支援の現場とかにもそうですけど、学習する場なのか、子供たちの居場所になる場なのかで、スタッフのこう、対応の仕方ってすごく揺らぐところもあるんですけども、その両面にちゃんと意義を見出して行って、縦割り行政の壁を受けて、なかなか動きづらい団体とかもいるんですけど、そういうところをぜひ今回丸亀市の生涯学習推進計画で乗り越えて行ってほしいなというのを、個人的に思っているところです。</p> <p>A委員のような、ご自身の取り組みと関連付けてでもよろしいです。空</p>
----	--

副会長	<p>欄のところを中心に見ていただきましたけれども、それ以外のすでに書いてあるところとか、もう 1 回見たいものがあれば、教えてもらっても大丈夫です。</p> <p>具体的な施策等がこれから出来上がっていくと思うんですけど、今、主な取り組み、関連部署の部分が、第 4 次計画の方でもこれと同じような書き方をしていたと思うんです。</p> <p>1 つお願いなんですけれども、この主な取り組みを、事業主体がはっきり分かるような書き方にしたらどうかと思います。例えば、不登校生徒に対する学習の支援は学校教育課がする、と言うふうに、誰がどういうことを中心になってやるんだって言うことが、市の計画ですから、それがはっきり分かるように。「関連部署」って言ったら、関係しているだけで、自分が中心じゃないのかな、みたいな、そういうイメージを持たないように、事業主体は、はっきりここですよ、やることはこれですよと。それぞれ、役所がやることですから、ちゃんと予算を付けて、その予算に基づいて、色んな事業がなされるわけですから、きちんとそういう事業主体がはっきり出てくることで、みんなの意識が、色んなことに繋がっていくんじゃないのかなと思いますので、書き方をそういう書き方に変えていくだけでも随分変わっていくのではないのかなという風に思います。</p> <p>第 4 次計画の方を見ても、これ結局、誰がどういう風にやるのって言うのがはっきり分からない部分がたくさんあるので、そういうところを少し考え直していただけたらありがたいなと思います。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございます。確かに関連部署なのか担当部署なのか、あと、この黒ポチに対してそのままの行が対応するのかどうかと言うのも、この表だとちょっとあやふやになる可能性があったりしますよね。主体として、各部署が責任感を持って、事業を担当しているんだって言う事が、見て分かるような書き方にするって言うのも 1 つ、大事な観点だったかなと思います。あと、いかがでしょうか？</p> <p>資料 2 に関して言うと、あとは 28、29、30 のその計画の推進に向けてと言うところも一応、ご説明はあったところなんですけど、特にこの市民の位置付けの変更と言うところも、今回修正として、ご説明頂いています。これ前回、確か荻上委員でしたかね？から、確かご指摘があった部分かなと思うんですけど、28 ページの推進体制イメージ図の修正ですね、市民の位置付けについて、前回よりも少し中心にあるように修正があったんですけども、もしよければコメントいただけると嬉しいです。</p>



D 委員	<p>はい。こういうイメージ図と言うのは本当に難しい中で、こうやって、新しいイメージを作って頂きありがとうございます。</p> <p>主体と言う言葉も非常にマジックワードで申し訳ないんですけども、やっぱり本当に自分達が主体であり、当事者なんだって言うところが出来ただけ図でも分かりやすくするのであれば、こういう風に真ん中に持っていて頂くのが良いのかなという風に思いました。</p> <p>あと、市民の周りを円で囲むブロックが、これは今施設ですとか、団体、機関みたいなのが、言葉としては入っているかと思うんですけども、こういう多様な人たちが直線上に、円のような形で繋がっているというところも、生涯学習や社会教育を考える時には、僕は大事なところなのかなと思いましたので、私がこの図を見た第一印象としては、うまく対応してくださったかなと思いました。以上です。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。あとはどうでしょうかね。前回なかった要素として、PDCA サイクル、ロジックモデルと MSC の話もありましたが、これは運用してみないと見えないところもあるかなと思うので、そうですね、次に多分課題になってくるのが、誰がどうやるのかというところかなと思います。</p> <p>社会教育事業の主体が様々いる中で、関連部署とかもあるわけですよ。必ずしもまなび文化課の人じゃない人が、もしかしたらこの MSC をやる可能性もなくはない。そういった時に評価として使えるものにしていくための手間や訓練が必要だとは思いましたが、でもこれができたらすごく素晴らしいことだなと思います。</p>
A 委員	<p>これってテキストマイニングではないですかね。テキストマイニングだったら何百人分の自由記載を入れるとどういう風な考え方が多いかが視覚的に分かりますけど、1 人 1 人に聞いて、数人しか話が聞けなかったら、ものすごく時間がかかるので、そうすると誰に聞くのかとか、どういう風にやるのかっていうことが難しい。</p> <p>けど、テキストマイニングだったらアンケートみたいに自由記載で意見を聞いて、それをエクセルに落とし込むと、表やグラフで確認できます。完璧ではないけど、研究ではよく使う手法かなと思います。この MSC っていうのは私は初めて聞いたけれど、テキストマイニングだったら質的研究っていうのは大学でもよくやってるんですけど、E 先生はされますか？</p>

E 委員	<p>はい。テキストマイニングは私もたまにやります。テキストベースで、質的な評価をするときに、口頭での言葉のやり取りだとやっぱり人数が限られてしまって時間もかかりますし、そういう時にアンケート用紙でテキストを使ってたくさん意見を収集して、それを言葉で区切って、その言葉の量を集めていったりとか、共起表現とかですね、その言葉の前後にどんなものが連なっていくかとか、そういう分析をすることで、ここで懸念されるような時間がどれだけかかるのかとか、誰がやっても同じ方法になるのかとか、そういったものはある程度クリアできそうなところですよ。</p>
会長	<p>変化が前提になってるところが少し気になる点ではあるんですけど、例えば、モチベーションが最も高い人が、モチベーションを維持することもすごく大事な学びだと思うんですが、側から見ると変化がないことだったりして、それがじゃあ評価に値しない出来事なのかということそんなことでもないの、ちょっと難しい。この場にいるみんなが勉強が必要なことなのかもしれないですけど、でもすごく良い挑戦だとは思いますが。それから、テキストマイニングであれば、従来通りそのアンケートを、講座の後収集して、その分析の方法が、少し改まるっていうイメージなので、今までやってきたことを大きく変更することなく、もしかしたら MSC みたいなことが取り組めるのかも知れないですね。</p> <p>では次は資料 3 のご説明を頂けたらと思います。</p>
事務局	<p>はい、資料 3 ですが、アンケートの結果報告書になります。こちらの方はですね、前はまだアンケートの生データしかお示しができていなかったんですけども、今回は集計委託してる業者の方から報告書という形で上がってまいりましたのでお渡しをしております。</p> <p>事前にメールでもお伝えした通り、実際は色んなクロス集計を含めた完全版の報告書がありまして、データでお送りした方はご覧になったかもしれませんが、それが 130 ページ以上、膨大な量になるので、今お渡ししていますのは、この計画の中で利用したクロス集計のデータなどを抜粋してお示ししているものになります。</p> <p>お渡ししたものや以前お送りしたデータなどをご覧いただいて、このデータも使えそう、ですとか、このデータはこういう解釈ができる、といったようなご意見もいただければと思いますので、よろしくお願いします。</p>

会長	<p>事前にご確認できた方もいらっしゃると思うんですけども、今回のこの計画の基本施策を位置づける時に、関連して使ったものを抜粋して今回資料化していただいているということでした。</p> <p>これでもまだまだ膨大な量かなとも思ったりもするので、この場で内容を全て確認することが難しいので、もし事前に確認できた方がいらっしゃればご意見をいただければと思うんですけども。</p> <p>ちょっと資料の作りで、一点お伺いしたいのが、問いの文章を緑で網かけしている部分はこういった意図ですか。</p>
事務局	<p>緑で網かけしてるところは、実際に素案の中で取り扱っている質問になります。</p>
会長	<p>かかってないのは関連するけど載せていないってということですか？</p>
事務局	<p>そうですね。このお渡ししてるものに関しては、まずアンケート結果、全部で 46 問あるんですけども、その 46 問の基本的な回答結果を全て載せています。加えて、別の質問と別の質問を関連付けたようなクロス集計結果で、かつ今回の素案の中に取り入れてるもののみ、緑で網かけして追記しております。</p>
会長	<p>これを素案の中で根拠として用いているという作りのわけですね。はい、ありがとうございます。前回アンケートのことで少し議論になったのは、誰が回答しているかが、実には正確には見えてこない集計の仕方をしているということでした。</p> <p>例えば、ケアが必要な人への支援についての質問で、それをケアが必要な人ご本人が答えているのか、それともケアをしてるご家族なり、親や者が答えているのかっていうのは実が見えてないっていうことだったので、その回答をどう扱うかっていうのは少し注意が必要だということだったんで、それに関連する項目でクロス集計されてたりする場合には、ケアが必要な人はこんなことを思っているんだという風に読み取れないっていうか、そういうところは注意が必要だというお話だったかなと思います。</p> <p>これについては、今後具体的な施策を埋めていただく際にですね、委員からこの項目がもしかしたら根拠となってこういうものが必要になってくるんじゃないか、とか、そういう時の根拠資料として活用いただくこ</p>

事務局	<p>ともできるのかなと思います。</p> <p>もしご意見がなければ、議事に関しましては以上になるかなと思うんですが、いかがでしょうか。多分委員の皆さんは事務局とメール等でやり取りができる状態だと思いますので、追加で何かお気づきの事があれば、ご連絡していただければと思います。よろしいでしょうか。はい。</p> <p>では、事務局の方から報告事項についてご説明お願いいたします。</p> <p>資料４をお願いします。前回の会議の時にお知らせしたんですけれども、第４７回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会が開催されます。前回ご希望の方がいらっしやらなかったんですけれども、再度お知らせさせていただけたらと思います。</p> <p>今回は２次案内ということで、分化会の詳細などが記載されています。なお、宿泊や申込等はこちらの方で手配いたしますので、ぜひご参加できそうな方はお知らせください。</p>
会長	<p>ありがとうございます。私が参加できないので、どなたか行って頂けるとありがたいです。ちょっと平日で参加しづらいとは思いますが、ぜひよろしくをお願いします。報告ありがとうございました。</p> <p>ではその他何かあればよろしくお願いします。このその他っていうのは多分、委員の方から何かお知らせがあれば、ということも含まれていると思いますので、ぜひご活用ください。</p> <p>はい、それでは議事と報告について済みましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。</p>
事務局	<p>はい、ありがとうございます。これで第３回会議を終了いたします。</p> <p>委員の皆様大変お疲れ様でした。また次回についてはメールの方で予定などお伝えしたいと思いますので、よろしくお願いします。次回は、できれば１１月中に実施させて頂きたいなと思っております。</p> <p>次回は具体的な取り組みの方を、今以上に埋められた形でお示しできればと思いますので、よろしくお願いします。</p>